ふくいミュージアム

1994.3.31
No.25

福井県立博物館

玉 古墳中期 松岡町泰遠寺山古墳 野村英一氏蔵

泰遠寺山古墳からは、勾玉(ヒスイ・碧玉・ガラス)・管玉(緑色凝灰岩)・ナツメ玉(ガラス)・丸玉(ガラス)・小玉(ガラス)など、さまざまな種類の玉がみつかっています。

春の特別展

開館10周年記念特別展

北陸の玉 ―古代のアクセサリー―

会期 4月27日(水)～6月5日(日)

人は数万年もの以前から、さまざまなアクセサリーをつくりだし、それを身につける習俗をもっていました。本来アクセサリーは、呪術・宗教的な意味を持ちあわせ、今のように身を飾るためだけの道具ではありませんでした。

原始・古代におけるアクセサリーには、勾玉や管玉などの玉類が多く用いられました。石や角、ガラスなどを巧みに加工し、これにひもを通して首飾りや腕飾りとして用いていたのです。今日でいえば、宝石やガラスでネックレス、ブレスレットを飾るようなものです。

北陸地方は、かつて縄文から古墳時代にかけて、日本でも有数の玉の生産地でした。ヒスイや緑色凝灰岩などの石材にめぐまれ、これを加工する玉つくりの技術が発達したのです。当時、北陸でつくられた玉は、日本列島に広く流通しました。時代による玉つくりの変遷、具体的にいえば、玉の素材や加工技術、製品の形の変化には、各時代の社会の動向が映しだされていたはずです。玉の生産や流通こそ、祭祀をつかさどった古代の政治権力と密接に結びついて行われたものと思われます。

今回の企画を通して、古代のアクセサリーが放つ永遠の美しさとともに、北陸を中心とする原始・古代社会の変容を示したいと思います。

勾玉 古墳中期 福井市天神山7号墳
福井市教育委員会蔵

けつ状耳飾り 縄文早期 金津町桑野遺跡
金津町教育委員会蔵

アクセサリーのなかの玉

ここでは、原始・古代のさまざまなアクセサリーを紹介します。なかでも、その中心をなした玉にスポットをあてます。

■ 縄文時代～アクセサリーのはじまり～

アクセサリーは、旧石器時代(～前10,000年ころ)に現われていましたが、縄文時代(前10,000～前300年ころ)になって種類が増え、櫛・ヘアピン・ピアス・ネックレス・ブレスレットなど、今日私たちが目にするアクセサリーが、すべてでそろいます。

■ 弥生時代～海をこえた玉と技術～

弥生時代(前300～250年ころ)には、新しい文化が大陸からもたらされ、アクセサリーの素材や形態に大きな変化が起こります。

■ 古墳時代～王権と玉～

古墳時代(250～600年ころ)には、各地の政治勢力の統合が進み、アクセサリーの地域色が薄れていきます。また、アクセサリーの中には、豪族の支配権力を象徴する宝物としてあつかわれるものもでてきます。

北陸の玉つくり

ここでは、玉の生産と流通の面からみた、北陸の玉つくりの変遷をみていきます。

■ 玉つくり遺跡

北陸の代表的な玉つくり遺跡を紹介します。専業化の進展や遺跡立地の変化、豪族との関わりなどについてみていきます。

■ ヒスイの流通

北陸でつくられた玉はどこへ運ばれたのか、新潟県糸魚川市周辺でしか産出しないヒスイを例にみていきます。

■ 石製宝器の流通

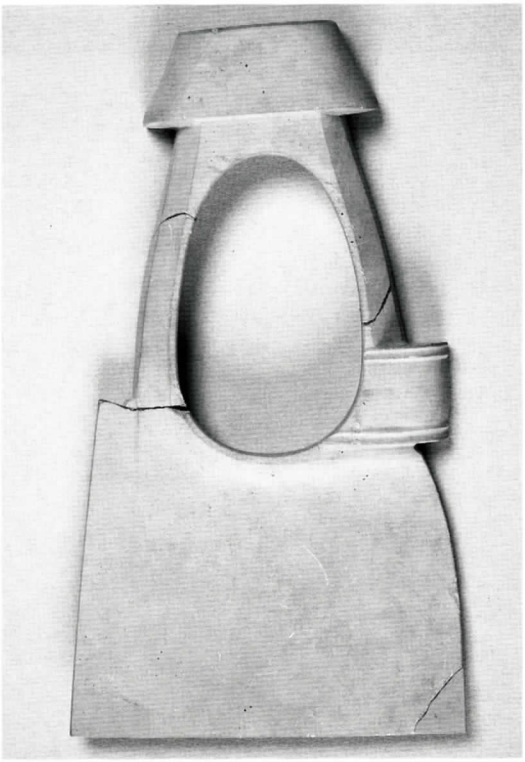
豪族の支配権を認めるあかしとして、畿内政権から配られたといわれる石製宝器。その配布の様子や製作工人の移動についてみていきます。

■ 玉つくりの技術

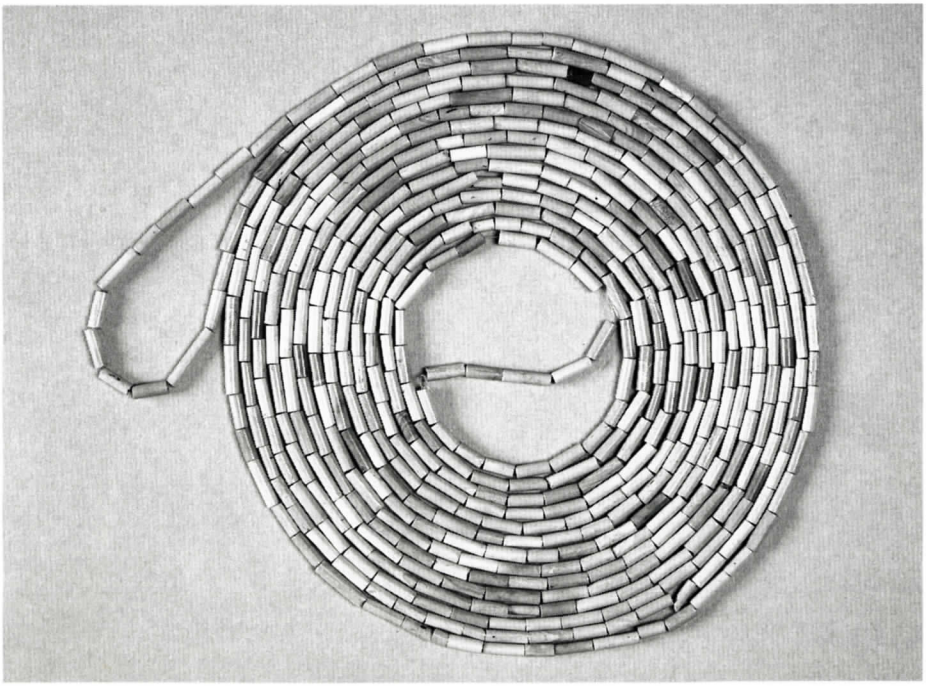
玉の製作技術の変化をみていきます。

○ 玉つくり工房の復元

片山津玉造遺跡(石川県加賀市)で発掘された竪穴住居跡を参考にして、古墳前期(250～400年ころ)の玉つくり工房を復元します。



鍬形石 古墳時代 伝、岐阜県出土



管玉 弥生中期 福井市太田山２号墓
福井県埋蔵文化財センター蔵

資料紹介

恐竜足跡の化石

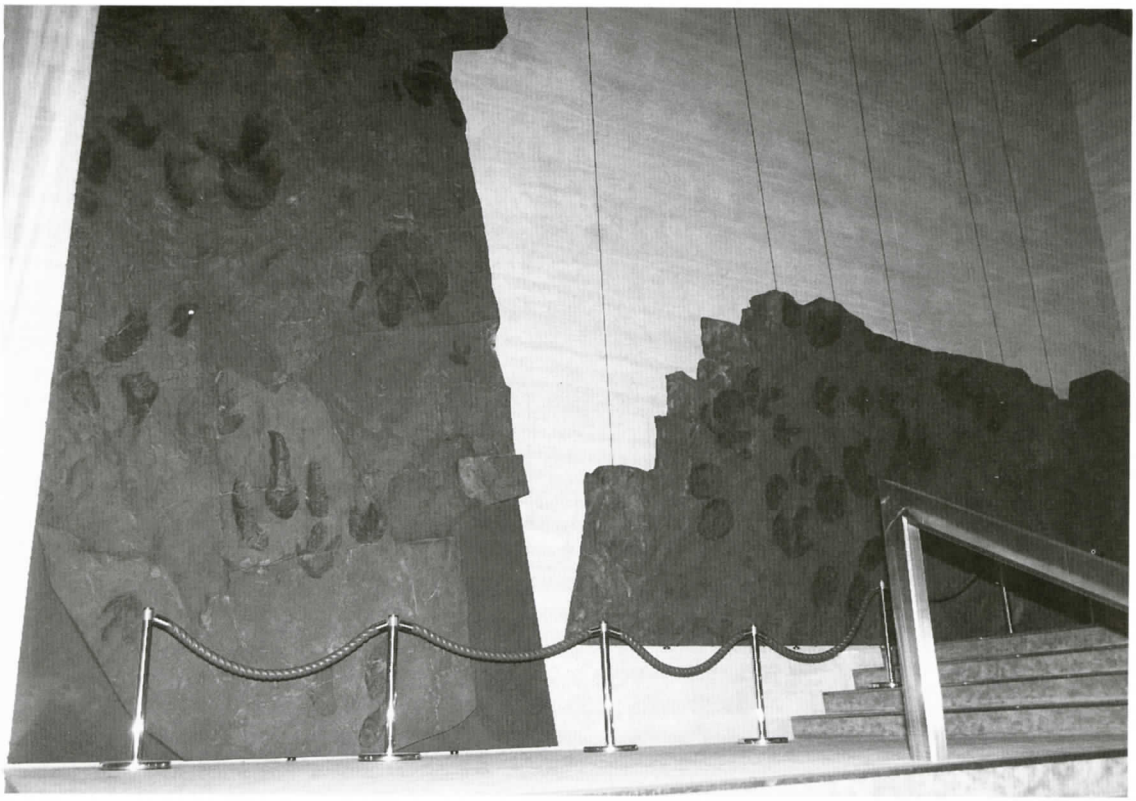
昨年末から行われていた、恐竜足跡化石のレプリカ(複製)製作が終わり、博物館に展示できることになりました。

この足跡化石は、平成元年度から行われてきた福井県勝山市北谷での発掘調査で発見されたものです。世界的にも珍しいとされている鳥脚類、獣脚類、竜脚類など6種類以上、9個体が連続歩行した約80個の恐竜足跡がついている約35平方メートルの大きさのもので、約1億2千万年前、中生代白亜紀前期の地層にあります。

この地層面を6m×3m、3m×7m程度の大きさの2つの面に分けて、シリコン樹脂で型どりし、レプリカ製作の専門業者に型を運び込んでF.R.P.と呼ばれる強化プラスチックで、レプリカ本体が作られました。

この恐竜足跡の中には大型竜脚類の70cm～90cmの国内最大のものが、大型獣脚類では長さ70cm、幅43cmの世界最大級の足跡化石が見つかっており、外国に負けないくらいの大きな恐竜が、実際にそこにいて暮らしていたという確かな証拠をしめしています。と同時に、その歩いて行った方向や生活の様子などが具体的にわかることから、当時の環境を想像する貴重な手がかりともなるのです。

出来上がったレプリカは現場のものとそっくりに着色されてはいますが、足跡が分かりやすいように土台と色調をほんのわずかだけ変えてあります。この化石のレプリカは博物館のロビーの壁いっぱいに展示されています。連続して歩いていた恐竜の足跡を見て、恐竜の大きさや歩幅などを実感してみてください。



展示されているレプリカ

中国産恐竜の全身骨格レプリカ

平成５年度に中国科学院古脊椎動物古人類研究所から、中国で発見された恐竜の全身骨格複製を購求しました。この２体の恐竜はロビーに展示します。

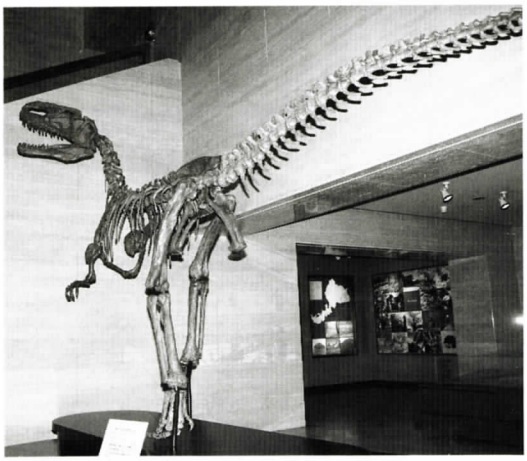
モノロフォサウルス　*Monolophosaurus*

ジュラ紀：竜盤目：獣脚亜目：アロサウルス科

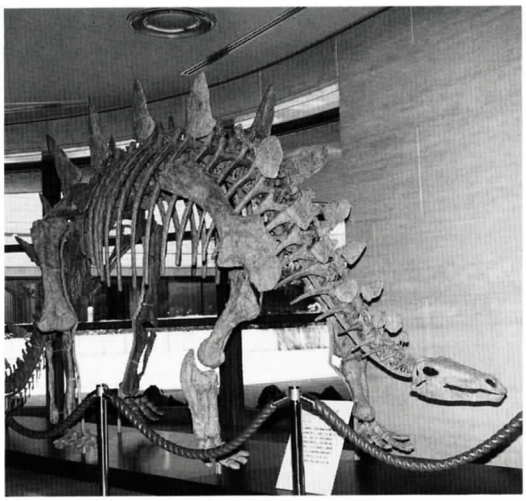
中型の獣脚類で、その特徴は、頭の頂上によく発達した「とさか」を持つことです。細長い頭蓋と下顎をもった細長く頑丈な頭をしています。前顎骨に歯が３本あります。また顎骨は13の恐ろしく鋭い歯があり、かなり大きなものです。歯骨の歯の数は16本。背骨は、９つの頸椎、14の胸腰椎、５つの仙椎、そして45以上の尾椎からなっています。

頭蓋骨は、眼窩の間から外鼻孔の間に広がる突き出したとさかで他の獣脚類と用意に区別できます。このとさかには、２つの大きな孔があります。このとさかの役割については、オスだけにある飾りとか、捕食の時に使うとかの説がありますが、まだはっきりしたことはわかっていません。

恥骨はしっかりして大きく広がり、腸骨はたいへん長いものです。腕は長く、３本の強い指があります。後肢は、丈夫で４本の指があります。全長６m、体高3.5mに達します。この恐竜は、ジュラ紀で最も危険な肉食動物であったといえます。そして、湖の中州あるいは川岸に棲んでいたようです。



モノロフォサウルス



トウジャンゴザウルス

トウジャンゴサウルス　*Tuojiangosaurus*

ジュラ紀：鳥盤目：剣竜亜目：ステゴサウルス科

２列の三角形をした骨板と、尾の先端の２対の長いスパイク状の刺で知られる大型のステゴサウルス類で、全長７mほどにもなります。

頭蓋骨は北アメリカのステゴサウルスに似ていますが、長めで低い顔域を持ち、頬骨は退化して小さくなっています。歯は小型で左右に27本ずつ有り、互いに重なり有って１列に並んでいます。仙骨は、５本の脊椎骨でできています。大腿骨と上腕骨の長さの比率は、1.57：1になります。

17対の骨板と刺は、背中に沿って首から尾の先まで並んでいます。アメリカのステゴサウルスと違って、骨板は左右対称に並んでいます。首の部分の骨板のみ、洋梨の形をしています。これらは、捕食者から身を守る装甲板の役目を持っていたと思われます。しかし最近の学説では、骨板の表面に血液の通った後があることから、体温調節に使ったのだとか、この骨板を動かして敵を威嚇したのだとか、様々な意見があって興味のつきないところです。

また、中国では肩の両側に長い鎌のような刺を持つトウジャンゴサウルスが発見されていて、研究者の間で論議をよんでいます。　（宮 川）

夏の特別展

よそおい・いのり・おどり ―環日本海の人と祭り―

映画に出てくるキョンシーは、なぜ両足をそろえてピョンピョン動くのか、この展覧会の準備をしていて初めて知りました。漢族は屍に日や月の光があたってキョンシー（殭尸）になることを恐れて、死者の足を軽く縛っていたのだそうです。なぜ、恐れるかは皆さんもご存じのとおり。両足を縛られては普通に歩くことはできないわけです。日本の幽霊に足がないのとは大きな違いですね。ちなみにピョンピョン動くキョンシーの衣装は清朝時代の役人の服装。娯楽映画とはいえ、民族の伝統にしたがっているわけです。

御飯を食べるとき茶碗をもたなければならない日本人、茶碗をもつことをたいへん下品だとする朝鮮人、道端で立って食べることをなんとも思わない漢族や他の中国人。箸をつかい、米を食べるのに、大きくちがいます。民族によってふるまいや考え方の違いには無数にあります。

この展覧会は日本周辺のさまざまな民族の文化を理解することを目的にしています。とはいえ、一つの民族だけでも全体としての文化を展示することはとうていできません。そこで民族衣装や演劇・音楽の用具などを展示することにしました。

展示は地域別に三つの項目で構成されています。

1はアイヌ、ニブヒ、ウイルタ、ナナイなどの北方の少数民族。形はよく似ているのに民族により模様の違う衣装、魚の皮の衣装、熊送りなどを取り上げます。

2は韓国。日本の祭りばやしのように農村でもっとも親しまれている農楽(ノンアク)、誇張した面をつけ、支配者を風刺する内容の仮面劇の面、婚礼衣装と宮廷音楽の編鐘など。女たちの遊びのシーソー（跳板戯）も展示します。

3は中国。まず中国の諸民族の衣装、次に京劇の衣装と楽器、人形劇や仮面劇の用具、祭りの龍や獅子、凧、中国人の信仰や願いを示す「門神」・「年画」。民族衣装は刺繍がたっぷり施され、銀の飾りも豪華です。京劇の衣装では、現在では中国でも作れないと言われる貴重な資料をお借りしています。

最初は霊魂観を示すものや食べ物も、と思いましたが、衣装や装飾品などを数多く展示し、色鮮やかで華やかなものにすることにしました。「環日本海」といいながら、日本はとりあげていません。他の民族の文化をそれ自体として見ていただきたい、できるだけ多くの他民族の資料を展示したいと考えたからです。特殊な本でしか見られなかったもの、そんなものとの出会があるはずです。

この展覧会は、'94国際芸術祭の協賛行事として、8月2日(火)～9月4日(日)に開催されます。7、14、21の各日曜日にはアイヌ、韓国、中国の祭りや芸能を紹介する映画会を博物館で、25日(木)～29日には'94国際芸術祭が福井市、敦賀市で開催されます。ステージでの芸能公演とあわせて見てください。

（坂 本）

中国・ブイ族の仮面

京劇衣装の刺繍

入館者の声　平成5年度 館蔵資料展

平成6年2月7日～3月13日に開催した館蔵資料展を観覧いただいた方々の感想を、いくつかここに紹介します。

・「いろんなものがたくさんあって、とてもすごいなと思いました。昔の人ががんばったから今はこんな世界になったんだなと思いました。」
（小学生・女性）

・「福井県の歴史はあまり知らなかったけど、とてもよい勉強になった。」（高校生・男性）

・「初めて見る物がたくさんあってすごく感動した。福井県の人がなぜ北海道へ移住したのかがわかるともっとよかった。」（20代・女性）

・「北海道移住のことできました。広さの制約もあるでしょうが、どのような交通手段でいったとか、北海道での開拓の様子の写真がもっとあるとよいと感じました。（親戚が北海道厚田村へ移住しているので来ました。）また資料を集めて開催してほしいです。」（30代・男性）

・「北海道移住なんて知らなかった。」（30代・女性）

・「古いビデオ（福井震災等）などたいへん参考になった。瓦や看板等も興味深い物で当時を思い出しました。今後もいろんなテーマでみせてください。」（60代・男性）

・「なつかしく見つめました。どこでも見かけた看板ですが、今ふりかえるとどこにもありませんね。」
（60代・女性）

アンケートにご回答いただいた内容は、「とてもよかった」などたいへん好評でした。中には手厳しい指摘もありましたが、今後への参考として役立てたいと思います。ご協力ありがとうございました。

友の会会員募集！

平成6年度福井県立博物館友の会会員を募集します。

◆こんな特典があります◆

・博物館と友の会の行事をもれなくご案内します。
・常設展示を何度でも無料で観覧できます。
（家族会員は1度に4名まで）
・特別展の無料入場券が送付されます。
（家族会員は2枚）
・共催展は会員特別割引で観覧できます。
・県外の博物館や史跡をまわる見学会に参加できます。
・友の会の会誌「Myミュージアム」をお届けします。
・館の広報誌「ふくいミュージアム」をお届けします。

◆会費（1年分）◆

一　　般		2,500円
大学生・高校生		2,000円
中学生・小学生		1,000円
家　　族		5,000円
賛助会員*	（一口）	10,000円

（何口でもけっこうです）

＊本会の趣旨に賛同し、上記の会費を納入いただける法人または個人の方

◆期間◆

平成6年4月1日～平成7年3月31日

◆入会の方法は◆

入会申込書（博物館にあります）にご記入のうえ、会費を次のいずれかの方法で入金してください。

・直接、博物館内事務局へ
・お近くの郵便局から郵便振替で（申込書は別送）
口座番号　金沢00750－9－23379
加入者名　福井県立博物館友の会
・現金書留で郵送（申込書を同封）

◇入会手続き終了後、会員証をお渡しします◇

恐竜王国ふくい

こどもサマースクール'94

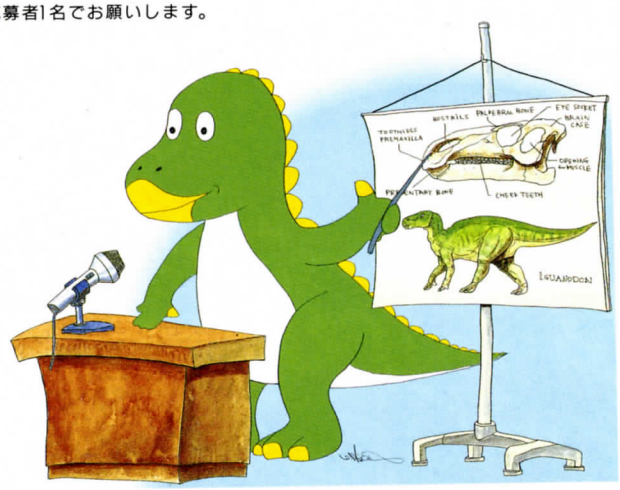
～こどものための最新恐竜学講座～

■日程　平成6年8月12日㈮～13日㈯
■場所　1日目／福井市：フェニックスプラザ大ホール
　　2日目／勝山市：勝山市民会館・恐竜化石発掘現場
■恐竜スクール

恐竜スクール名誉校長	竹内　均	福井県立博物館名誉館長・東京大学名誉教授
恐竜スクール校長	濱田隆士	放送大学教授・東京大学名誉教授
講師	冨田幸光	国立科学博物館古生物第3研究室長
	ヒサクニヒコ	恐竜イラストレーター
	東　洋一	福井県立博物館主任学芸員

応募要項

■参加対象者/全国の小学5・6年生500名(県内250名、県外250名)
■参加費/無料　※ただし、交通費・宿泊費は自己負担
■宿泊の条件/宿泊希望者は、保護者同伴とします
■応募方法/往復はがき(官製)に次の項目を記入して申し込んで下さい//
　項目　①氏名・学年　②住所・TEL・保護者氏名㊞　③宿泊の有無・人数
　※ただし、はがき1枚につき応募者1名でお願いします。
■締切/平成6年6月30日㈭　＊当日必着
■発表/●応募者多数の場合、抽選により決定します。
　　●当選の有無は返信用はがきにて、本人あてに通知します。
■申込・問い合せ先/〒910　福井市大宮2-19-15　福井県立博物館
　「恐竜王国ふくい・こどもサマースクール'94」係り　TEL0776-24-3870



ふくいミュージアム
No.25
1994. 3. 31発行

編集発行　福井県立博物館
福井市大宮2丁目19－15
〒910
☎0776－22－4675㈹
印刷　株式会社エクシート

福井県